

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000336		
法人名	有限会社風		
事業所名	有限会社風グループホームたんぼぼ		
所在地	佐賀市久保田町大字新田3475番地5 (電話) 0952-68-2062		
評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年11月30日	評価確定日	平成 20年1月22日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年1月11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤3人, 常勤換算	6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	階建ての 1 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85.3 歳	最低	75 歳 最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平松病院、下平歯科久保田診療所
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の静かな環境にある新築のホームは明るい陽が差し、落ち着いた雰囲気であった。「じゆうに」「きままに」「ふわふわと」を理念とし、入居者の尊厳を尊重したケアが行われていた。入居者はホーム内でそれぞれの役割を持ち、いきいきと生活されていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価においては特に改善点なし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価によりこれまで築いていなかった面を見直し、スタッフ間で協議し改善に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	区長、民生委員、家族代表、入居者代表など、さまざまな顔ぶれで運営推進会議を開かれていたが、その回数が少なく十分とは言えなかったため、2~3ヶ月ごとに開催しホームの運営に活かしていくことが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱を設置し、相談機関の紹介などがなされている。また、家族会が活発に行われ、そこで上がった意見を吸い上げてサービスに活かされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会の会員となって区費の徴収、回覧板回しなどその役目を果たされている。さらに町の文化祭に作品を出展したり、保育所に雑巾の寄付を行ったりしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念「ホームに籠らず地域社会とのかかわりを大切にします」のもと、地域の方々と交流を深められるよう取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・事務室など目に付きやすい場所に理念を掲示し、職員と入居者がともに理念どおり地域社会との交流を大切にして日々生活されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会の会員となって区費の徴収、回覧板回しなどその役目を果たされている。さらに町の文化祭に作品を出展したり、保育所に雑巾の寄付を行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価によりこれまで築いていなかった面を見直し、スタッフ間で協議し改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、家族代表、入居者代表など、さまざまな顔ぶれで運営推進会議を開かれている。しかしその回数が少なく、前回の開催から長期間たっている。	○	2～3ヶ月程度に一度は開催されるよう取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を除いて行き来する機会はほとんどない状態である。	○	ホーム便りを定期的に持参するなど、日ごろからの関係作りの工夫が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の便りにて日々の暮らしぶりが伝えられている。便りには居室担当者が個々の入居者の状況を記入して送られている。また、状況変化時には随時電話で連絡が取られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置、相談機関の紹介などがなされている。また、家族会が活発に行われ、そこで上がった意見を吸い上げてサービスに活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりがなく、同じ職員が継続してサービスに当たられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として職員が毎月テーマを決めて発表されている。また、外部からの研修案内を事務室内に掲示し参加が促されているが、職員の積極的な参加がなされていない。	○	内容が一律であり、それぞれの職員の段階に応じた研修の充実が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士で勉強会をしたいという声は上がっているものの、まだ実行する段階までには至っていない。	○	ネットワークを作り交流を行う場を設けるよう努力されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の趣味・嗜好を把握し、環境の変化に戸惑われないよう家族や入居者とよく相談しながら支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の作品が完成したら達成感を共有し喜びあい、一緒に飾り付けを行うなど、共に過ごし支えあう関係がつけられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント作成時や日ごろの会話の中から入居者の思いがくみ取れるよう努められ、「自分だったら」と常に考えてケアに当たられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにて入居者・家族の情報を収集し、そのうえでプランを作成し、カンファレンスによる意見交換が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとの計画の見直しが行われ、必要に応じた見直しも行われている。また、入居者の変化に敏感に対応できるよう努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の要望に応じ通院の支援を行うなど柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望を重視し、従来からの主治医への受診の支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期への対応についてスタッフ間で協議され、一定の方針が立てられて家族への説明などがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊厳を持って接するよう心掛けられており、プライバシーを損ねるような対応は見られない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前からの基本的な生活のリズムを壊さないよう、個々の生活のペースや希望を配慮したケアが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・後片づけ等、職員と入居者がそれぞれに役割を持って生活されている。職員は入居者と同じテーブルについて介助し、ときには入居者同士の助け合いを見守られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は15時から18時までで、出来るだけ家庭での入浴時間に近づけるよう工夫している。毎日の入浴を基本としつつも入居者の意向を尊重して入浴の回数などが決められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	清掃や調理などの分担ができていて、それぞれに役割を持って生活されている。手芸などの趣味の支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物やごみ出しなどの日常の外出は常に行われている。また、家族とともに外出の機会も設けられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はされてなく、スタッフによる所在確認がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所により避難訓練が行われている。また、近隣の住民との関係を作り、災害時には協力し合えるように努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容については職員間で検討し、食事摂取量の把握や水分補給に努められている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇や畑が見渡せる食堂兼リビングルームには明るい陽がさし、ブラインドにより光量が調節されている。また、温度も適切に調節され、不快な音もなく快適である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真などが居室におかれ、自作の作品などが飾ってある部屋もあり、入居者が落ち着けるような居室づくりに配慮されている。		